

# 校長室だより

第92号

発行日 2015年 4月30日

発行者 桐光学園小学校長 斎藤滋

新年度がスタートして一ヶ月が経ちました。子どもたちは新しい学年での生活に慣れてきたようです。生活のリズムは学校だけで作れるものではなく、登下校の時間や、家庭で過ごす時間を上手に計画的に使えるかどうかにも関わってきます。元気に活動する時間、家族との楽しい会話の時間を持ち、食事や睡眠をしっかりとることができている子どもたちはいらいらすることも少なく穏やかな気持ちで生活できます。そうでない場合は、子ども自身は頑張ろうとしても、体調や精神の不安定さが表れてきます。無理なこと、子どもに負担が大きいことができるだけ継続することのないように、学校と家庭で支えていきたいと思います。

1年生は入学式で聞かせてくれたよい返事が今でも朝の会のときに聞こえています。学校生活に慣れるのは本当に大変だと思います。登下校での慣れない交通機関の利用、先生や友だちとの出会い、学校での授業や休み時間の過ごし方などに楽しさや不安がたくさんあったことでしょう。全てにおいて不安も心配もないという子はないはずです。また、そういう気持ちを持つことで自分の弱さや課題と向き合うことができます。それを乗り越えて行こうと頑張っている子どもたちを応援していきましょう。

## 【朝のはじまり】

4月のはじめの頃、8時20分からしっかりと朝の会が始まるクラスとやや遅れ気味なクラスがあつたように感じていました。原因は朝の支度に時間がかかることと、遊びからもどる時間が遅くなつて間に合わなくなってしまうことが考えられました。そのときに先生たちに伝えたことは、子どもたちに注意をして急がせるのではなく、先生が先に教室に行って余裕を持って子どもたちを迎えることを心がけてほしいということでした。その結果はすぐに表れて今ではどのクラスからも元気な朝の挨拶、そして朝の歌も多くのクラスから聞こえてくるようになりました。

子どもたちは誰一人として始まりの時間に間に合わなくてもいいとは思ってはいません。みんな分かっていることは改めて注意をしたり大きな声で「・・・しなさい」と言ったりする必要もないでしょう。先生や仲間たちが頑張っている姿が心に届きます。これが集団での学びの一つです。

## 【自分のいいところ】

誰もがそうですが、ほめてもらえること、認めてもらえることは嬉しいものでしょう。ときには、自分で気づいていないようなことを友だちから言ってもらえて嬉しそうにしている子もいます。10の注意より1のほめ言葉の方が子どもをやる気にさせるのは確かにだと思います。ほめられることはどうして嬉しいのでしょうか。それは新しい自分、今まで気づいていなかった自分のよいところに出合えるからではないでしょうか。学級の中で、「友だちや先生が自分をそのように思ってくれていたんだ、だったらもっと頑張らなくちゃ」と思える機会があればそれは大きな励みとなり、大きな力となることでしょう。

私もそうですが、学校で心配なこと、気になることを見つけることはよくあります。しかし、子どもたちの頑張る姿やよいところはぼんやり見ているだけでは分かりません。表面的に見えるちょっと気になるところや心配なところを受け入れて、その奥にあるであろうよいところ、素敵なところを見つけていくようにしたいです。

## 【朝会で】

たより73号の紙面でも皆さんにお伝えした「あと一つできることを」について再度朝会で取り上げてみました。

(73号から)

先日の朝会で「自分にできることをあと一つしてみましょう」という話をしました。一つの例として、トイレットペーパーの芯を取り上げました。ペーパーを使っていてなくなると予備に置いてあるものと取り替えてくれる。取り替えたペーパーの芯をその場に置くのではなくごみ箱に入れてもらえるとなお嬉しい。取り替えてくれるだけでも嬉しいのですが、そのあとでその芯をごみ箱に入れるというように、自分ができることをもう一つしてみてください。

また、もう一つは、自分が次のことをしようとしたとき、ちょっと今まで自分がいたところを振り返ってみてみましょうと言いました。私がステージに用意した机と椅子。そこに座って、次に立ち上がってその場から離れたときに子どもたちは「椅子、椅子」という声が聞こえてきました。そうなのです、自分が今までいた場所を振り返ることなく次の行動に移るとき、そこには「そのまま、やりっぱなし」のあとが残ります。そしてそれは誰かのお仕事になってしまいます。

自分を振り返ることは、誰にでもできる「あと一つ」のことではないでしょうか。そういう力を身につけた人を「すてきな人」と言うのではないでしょうか。